

ゴミを減らそう!!

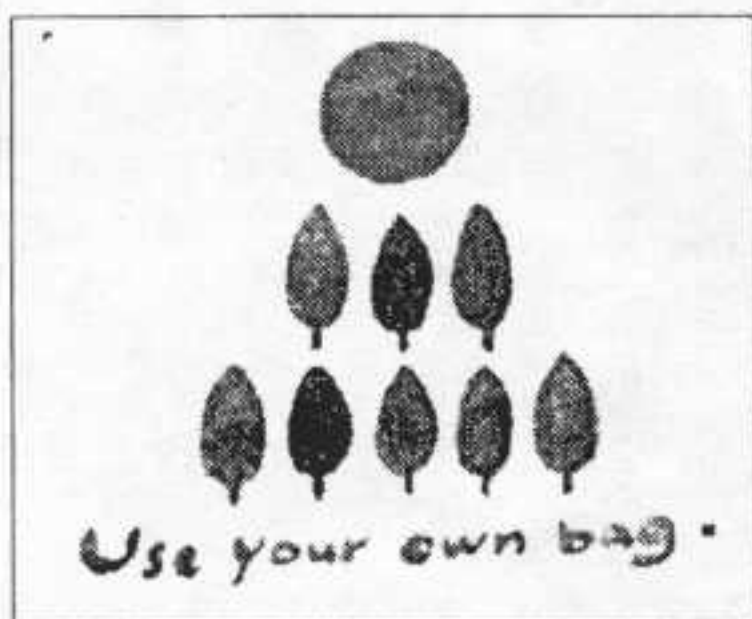


新谷さんの作品をプリントした手提げ袋。太陽と木を題材にした図案に、「Use your own bag」と描かれている。

gomi情報最前線

「かわいいね」、「これ、ええわあ」、「うちも欲しいわ」と、写真のバッグは至って女性に評判がいい。このバッグ、実は京都市ごみ減量推進会議のオリジナル。全市キャンペーン事業として、一般公募による買い物袋デザインコンテストを行い、最優秀デザインに選ばれた新谷葉子さんの作品を一澤帆布の協力を得てプリントした手提げバッグがこれだ。50袋を制作し、市民にプレゼントすることになり、マスコミ等を通して呼びかけたところ、645通もの応募があった。

ヨーロッパでは、買い物に自分の袋を持っていくのが常識。ところが日本ではお店で渡してくれるレジポリ袋を当然のサービスとして受け取り、ごみとして捨てている。ショッピング用の紙袋は毎月54枚、スーパーなどのレジポリ袋は、週8.4枚使用されているのが実状という。(ハイ・ムーン作画「絵コロジ」より) なんとか買い物袋持参派を増やそうと、デザインコンテストを実施した京都市ごみ減量推進会議では、今後も新谷さんの素敵なデザインをひとつのシンボルにして買い物袋持参を呼びかけていく。12.9の倍率で手提げバッグを手にしたラッキーな人が、広告塔になり、買い物袋持参派が増えることに期待したい。



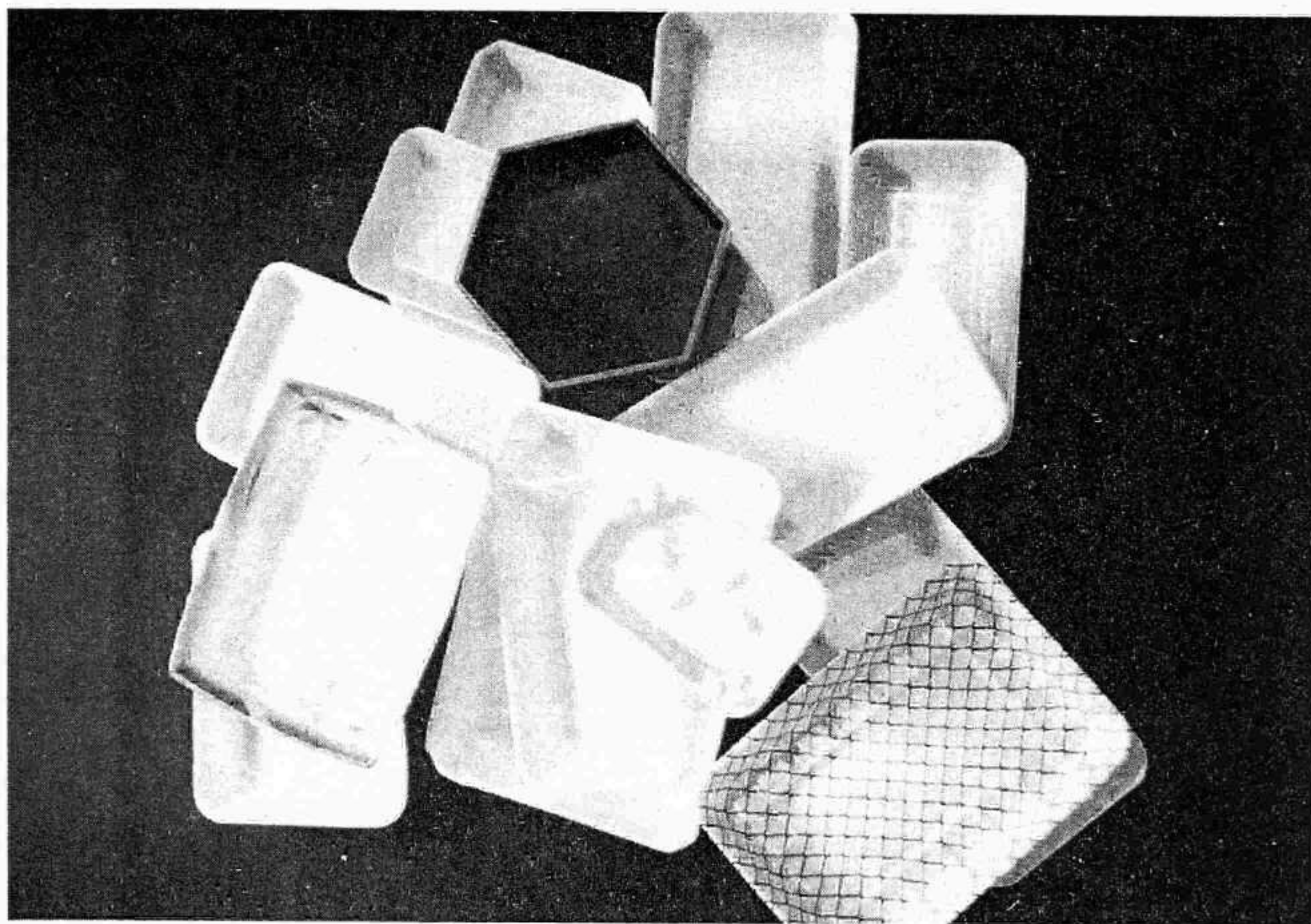
新谷葉子さんのデザインマーク

特集

トレーリサイクルの行方

牛肉、魚、野菜…。生鮮食品はもちろん惣菜、弁当などなど。スーパーや食料品店ではトレーが惜しげもなく使われている。ごみ全体からすると約3%といわれているが、毎日積み重なるとすごい量になる。ポリスチレンペーパー成型加工工業組合の集計によると1997年度のPSPトレーの生産量は、75,280ト。平均的なトレー（4^号）に換算すると175億枚に。店頭での回収が広がってきたものの、8%程度しか回収されていない現実から考えると膨大なトレーがごみとして捨てられていることになる。なんとかしたいと市民、流通、メーカーの立場でトレーリサイクルに取り組んできた、ご三方に話をうかがった。

●出席者 大上梅子氏 歌島秀明氏 大島芳和氏



洗って返す。リサイクルの基本が根付くまでが大変だった。（歌島氏）

大上●トレーは、スーパーの進出とともに昭和45年頃から急激に増えていきました。最初は、魚や肉だけに使われていたのですが、あれよあれよという間に野菜、果物に使われ、今では惣菜に弁当にトレーが嫌というほど用いられています。私たちは今、とにかく何とかしたいの思いでトレーのリサイクルに取り組んでいます。消費者の中にはずっと前、「バックバック運動」というのを進めておられた方があります。スーパーのレジを通るとすぐにその場でラップをはがしトレーを返すというのですが、食品の衛生上からも、洗って返すというリサイクルへの協力の点からも問題が多く、続かなかったようです。そんな状況を踏まえ、現在に至っているわけです。

トレーのリサイクルのバイオニアといえるエフビコさんに、まずお話しいただいては？ 私たちもエフビコさんの工場見学をきっかけに気になってなんとかしたいと思っていた、トレーのリサイクルに本格的に乗り出すことになったのですから…。

歌島●では、私から発言させてもらいます。当社がトレーのリサイクルについて考えるようになったのは1989年頃のこと。消費者活動が活発なアメリカでハンバーガーに用いていたPSP製のケースが紙製に変わったこと



大上 梅子 (おおがみ うめこ)

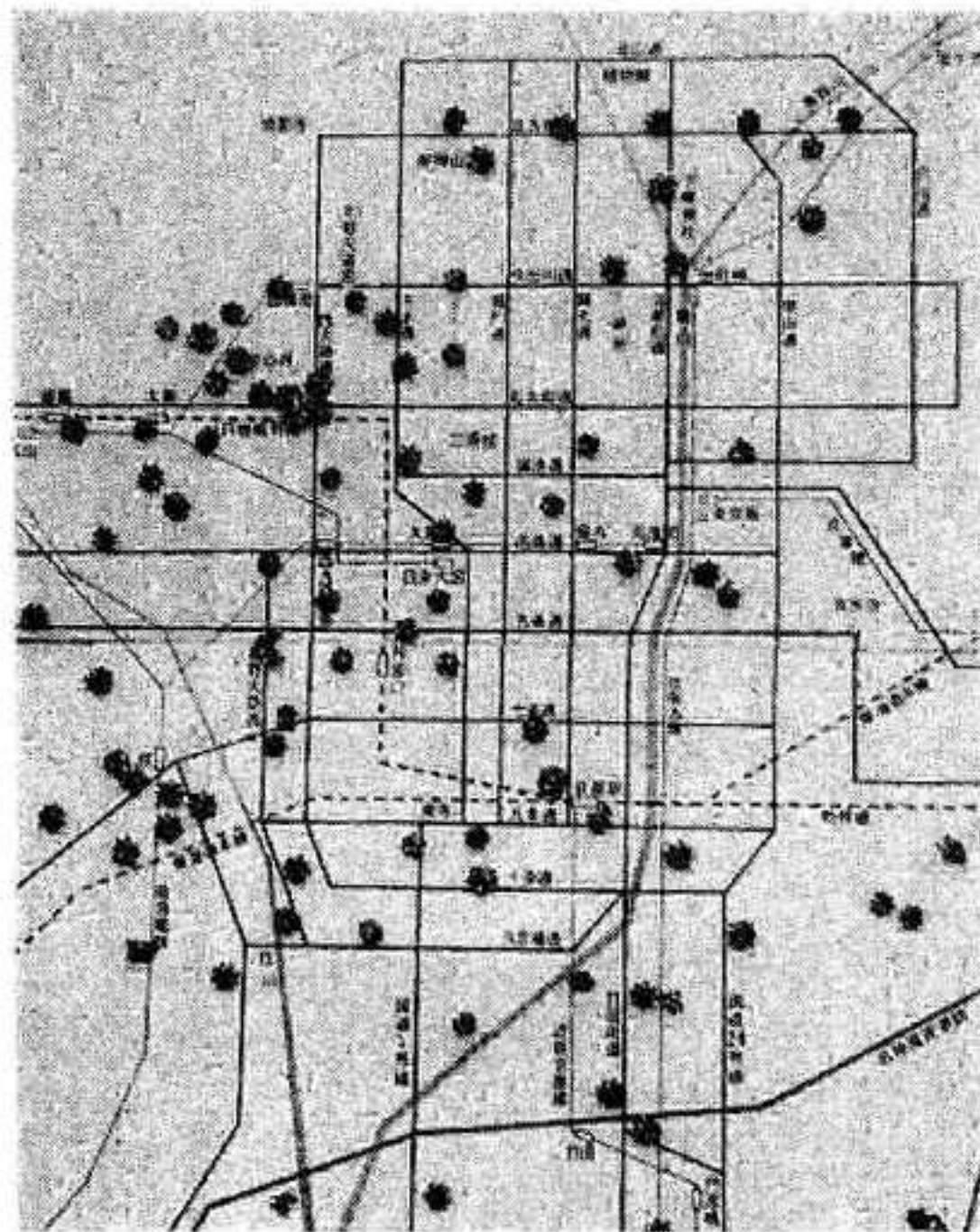
京都市消費者モニター経験者の会会員
京都市消費者モニターとして実績を重ねた後、平成5年京都市消費者モニター経験者の会に入会。すぐにトレー部会にて活動。実態調査、店頭指導を行う。平成6年同会幹事、平成7年代表幹事を務める。平成8年よりめぐるくん推進友の会幹事も兼任。

とに端を発しているんです。フロンガスの点で問題になったからなんですが、このニュースは我々にとっては衝撃的でした。これはいけない、使い捨てるという発想を改めないといけないということになり、1990年、本社の所在地である福山のスーパーで実験的に回収を始め、商品化の手がかりにしていきました。今だから笑って言えますが、いろいろ大変でした。消費者の方も要領を得ず、きれいに洗って返してもらえなかったんです。あれこれ試してどうやら回収する器がごみ箱のような状態では協力してもらえないと分かり、専用の回収ボックスを設置しました。時には1枚につき、1円渡すデポジット制を取り入れ協力してもらえよう訴えました。回収できないトレーについて知識を普及させたり、きれいに洗ってもらえるようチェックしたりしたものです。徹底までには1、2年かかりましたね。そうしているうちに消費者の方も

意識が高くなり、回収状態が良くなっていったのです。大上さんが所属しておられる京都市消費者モニター経験者の会の方が見学にこられたのはいつ頃ですか？

大上 ●私たちの会では、平成4年からトレー部会を発足させました。エフビコさんの工場を見学し、トレーからトレーにリサイクルできることを

この目で確かめ、これなら私たちにもできるんじゃないかと、帰ってすぐに学習会をしたのははっきりと覚えています。その後、メンバー14人でトレー部会を発足させました。すでにトレーの回収をされていたスーパーの店頭で実態調査をしたりして、活動を進めていったのです。あるスーパーの店頭では回収指導もやっただけです。チラシでトレーの回収を告知し、回収日にはたすき掛けて店頭に立ちリサイクルを呼びかけました。当時はまだまだ理解されず、回収する店側でも「汚いまま出されるのではないか」などと消費者の協力に対して半信半疑でした。場所も手間もとられることで嫌がられました。現在、京都市内では137店が回収を実施されています。私たちトレー部会では回収店舗のマップ



京都市内の発泡スチロールトレー回収店舗のマップ

つづくりを進め、平成7年に完成させました。京都生協さんでもずいぶん早くからトレーの回収を実施されていますし、回収方法など消費者にとってもいいかたちで進めておられますね。まさにトレーリサイクルの先駆ですが、ここまで体制を整えるのは大変でしたでしょうね。

独自のシステムを切り開いて 6年前から全店で回収をスタート

(大島氏)

大島 ●京都生協の場合、1989年の総代会で組合員の方から「トレーの回収をして欲しい」と意見が出されたのが始まりでした。京都生協は、トレーについてその使用を削減す

るという基本的な考え方をもって「トレー包装をすすめていました。しかし意見に基づいて排出したトレーをどうするかという考え方で、まず回収システムの確立を急ぎました。生協が店頭回収し、京都高齢者事業団が減容し、発泡スチレンシート工業会がスチレン樹脂に加工するという、システムをつくったのです。烏丸店など数店舗で実験を行い、円滑に運ぶよう改良を加えていきました。その結果を踏まえ、1992年から京都府内32の全店で店頭回収をスタートさせました。最初はコープ委員会の組合員が店頭に立ち、来店する組合員にルールの呼びかけを行いました。納豆、しめじなどのトレーは回収できないなど、基本的な注意事項の指導もしました。

回収は当初、ぎくしゃくしたこともありましたが、店の入り口付近に回収ボックスを設置したのですが、ボックスがいっぱいになるたびに、新しい袋に入れ替えなければならぬ、人手の問題もありました。また回収量が予想以上に多くて加工先への運搬も大変でした。あれやこれやでなんとか続けて1995年トレーメーカー各社で回収してくれるようになり、運搬や減容の負担が軽くなりました。

大上 ●トレーのリサイクルについては流通側だけが努力してもできるものではありません。消費者がやる気にならないとできない。トレーを洗って乾かす作業にしても、買い物つい



歌島秀明 (うたしま ひであき)

1973年株式会社エフビコに入社。営業畑を中心に勤務。平成8年7月より環境対策室長(東京駐在)として、LCAを踏まえたPSPトレイのリサイクルの推進に力を尽くし回収拠点の拡大などを図ってきた。平成9年6月よりTECS(テクス)事業部部長を兼任。

TECS: Total Environment Hygiene Control System
総合衛生管理システム

ではいえ店頭まで持つて行くのも面倒です。そのあたり生協さんはどうだったのでしょうか?

大島●組合員の協力については、購入した後、洗って乾かし、買い物時に店頭のボックスに入れるという方法で組合員同士に徹底してもらったので汚れたものもなく、問題はありませんでしたね。ただ回収できるトレイとできないトレイを区別することが組合員の合意となるまで時間がかかりました。初年度で回収量は40トンにも上りました。1995年は少し落ちて36トン、今年は供給量52トンを上回る60トンになると予測しています。組合員にとってはトレイのリサイクルが当たり前になっているようです。生協で買ったものではないトレイが持ち込まれているのでしょうか。生協で回収したトレイのうち28%がそのままリサイクルトレイとして活用されています。

大上●確かに、リサイクルの意識が高まりリサイクル率は高まっているのかもしれませんが、

けれど、業界全体つまりトレイの生産量全体からすればトレイのリサイクル率は低いのではないのでしょうか。10枚のうち一枚がリサイクルトレイということですが、それにしても少なすぎます。あるスーパーでの調査によると店頭での回収に協力する人は600人中163人だったという話も聞きますし、トレイに関してはまだまだ消費者側も意識が低いように思えます。

それにカラートレイや透明トレイなど品種が増え、リサイクルを妨げているのではと気がかりです。

大島●カラートレイもリサイクルできますが、前に一度、生協で使用するトレイを白に統一できないかと語ったことがあります。ところがやはり全体の合意を得られなかった。組合員の需要もあり、事業的にどのように整合性を持たせるかが課題として浮かび上がったのです。

私も京都生協ではトレイの使用を減らすと努力を続け、相当数がノートレイ包装に切り替わりました。しかしトレイをなくすことは現状では無理があります。安全に食品をお届けするための容器包装材としてトレイは衛生面からも欠かせないものであるという結論に達し、減量を行いながら、しっかりリサイクルするという姿勢で取り組んでいます。

歌島●その通りですね。トレイは現代生活に欠かせないものです。今では輸出もあり、海外での需要も広がってきています。PSPト

レは幸いにも単一素材でできているためマテリアルリサイクルが可能です。石油資源の節約になり、ごみ減量効果の面からも環境負荷が低いのが特徴です。

先ほどから話題になっているカラートレイについては年々、需要が高まってきています。現代はライフスタイルが多様化していて中食といわれる食べ方が広がっているからなんでしょうね。当社では、自動選別機も導入しカラートレイのリサイクルも実施しているんですよ。だからカラートレイも拠点に持っていてもらえばいいのです。

回収拠点を増やすなど市民の立場でリサイクルに寄与したい(大上氏)

大上●今後の課題の一つとして回収率を高めることがあると思うのですが、それには回収拠点を増やさなければなりません。例えば、テイクアウトのお店やコンビニなどで回収ができないものでしょうか。

歌島●実はエフビコでは、弁当屋の店頭で実験的に回収を展開したことがあります。しかし、ルールが守られない。それでついにギブアップしました。

大上●コンビニの店頭での回収はシステムさえできれば可能だと思います。



大島芳和 (おおしま よしかず)

1985年京都生協に入る。総合企画室企画担当、南ブロック事務局組織担当、組合員活動企画室企画担当などを経て、1996年2月より環境担当に。1996年度は、環境マネジメント・環境監査制度の導入に取り組んだ。毎年、環境事業活動の企画にあたっている。

当社はそもそもポリスチレンペーパー成型加工メーカー。当初はトレイではなくペン立て、フロッピーなどの製品を生産していたのですが、時代の趨勢の中、工場の水の問題が解決するなど条件が整い、「トレイトレイ」という考え方に基づき、入り口も出口もトレイという循環型の事業を進めることになりました。事業としては成り立つのかどうか冒険でしたが思い切ったわけです。1992年市場に出したのですが、ごみ減量への意識の高まりも予想以上に実績が着々と上がり、今では自治体ぐるみでの取り組みも増え、学校では環境教育の一環としてリサイクルに取り組みむなどしているところもあります。もちろん、スーパーなどの小売の店頭が圧倒的に多いことは事実ですが。

今、回収拠点が5,600、回収量は月間290トンになりました。コンビニだけでなく、なんと2000年には回収拠点を1万にしたいですね。

大島●リサイクルの入口を持つ私どもとしては、今の状況を見ていると、いかにして質的低下に歯止めをかけるかという点もひとつの課題ですね。量が増えるのと並行して、ルールを知らない人も出てきます。リサイクルというのは放っておくと質が低下するので常にルールの徹底に努めなくてはなりません。店内放送、掲示、キャンペーンなどくり返さなければ…。組合員に協力を呼びかけるのは私たちの努めですね。私たちも含め事業者は、リサイクルして当たり前の時代に入っています。2000年に向けて循環型の社会の形成を目指す時、いかにして回収システムを合理化できるのか、質を上げていくのか、再生品の利用を促進するのが事業者に関わっています。トレーに関しても、マテリアルリサイクルを基本に再生品の幅はもっともっと広がっていいと思います。回収率を高めるだけでなく、再生品の利用率をあげることが大切ではないでしょうか。

歌島●メーカーとしてはLC A（ライフサイクルアセスメント）という視点で容器包装を突き詰めていく必要があります。リサイクルを見据えての素材の見直し、リサイクルシステムの確立をきちんとしていかなければ…。21世紀は



発泡トレー専用回収ボックス、京都生協下鴨コープにて

環境への取り組みに対し事業者の責任が問われる時代です。私たちも市民の方々と共に考えていきたいですね。

大上●私たちは、トレーの問題に取り組んでから2年に1度、店頭で調査を行い回収が上手いっているのかどうかなどをチェックしています。これを持続してきたことは、回収実施店舗の刺激になったのではないのでしょうか。今後、トレー回収店の推進を心がけていくのは私たちの役割です。例えば、めぐるくんの店の加盟店にトレーを回収してもらうよう働きかけるとか、そんな活動もしていきたい。京都市では2000年から行政レベルでトレーが回収されます。行政で実施されるのはいいことなのですが、そのため回収の窓口が行

発泡スチロールトレー 判別マーク



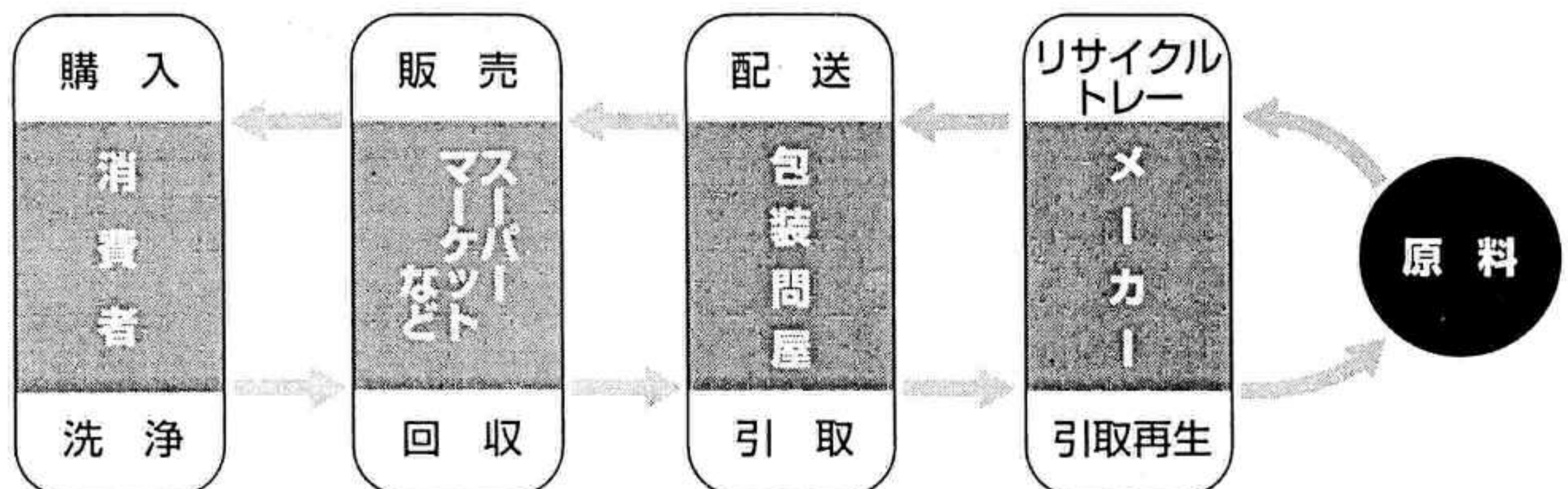
素材名：ポリスチレン
用途例：PSPトレー 魚箱
食卓関連 雑貨品

政だけに絞り込まれるようではリサイクル率が低下する可能性があります。いつでもだれでもどこでもリサイクルに協力できる体制を整えないと…。

今後、メーカーと流通、そして私たち市民できちんとリサイクルをすすめていけたらいいですね。市民である私たちの役割の大きさを感じます。多方面からの期待に応えるよう明日からまた気持ちを新たにリサイクルに取り組まなければ…。

※中食（チゅうしょく）
レストランなどで食事する「外食」と家庭で手作り料理を食べる「内食」の中間に当たるという意味を込めて、持ち帰り弁当、調理済み食品・惣菜などを製造、販売する企業が新ジャンルと呼ぶ名称

発泡スチロールトレー リサイクルの流れ



発泡スチロールトレーの市内回収店舗

(京都市消費者モニター経験者の会調べ) 平成9年4月現在

北 区

エムジーショップ金閣寺店	衣笠東御所ノ内町48-1	毎 日
エムジーショップ新町店	小山西元町9	毎 日
エムジーショップ西賀茂店	西賀茂丸川町31	毎 日
ニューかみとも	紫竹西高縄町8	日曜11時～14時
HOWDY鞍楽	鞍馬口通室町東入小山町226	毎 日
メルカードーふなおか	紫野西藤ノ森西北町	毎 日
マイカル北大路ビブレ	小山北上総町49-1	毎 日
イズミヤ白梅町店	北野下白梅町6-1	毎 日

上 京 区

ジャスコ西陣店	五辻通浄福寺西入一色町27	毎 日
スーパー北野西陣店	中立売通松屋町西入	毎 日
ポロロッカ京都厚生会出町店	河原町今出川上ル出町商店街内	毎 日
ニッショーストア千本店	千本通下長者町上ル	毎 日
北野商店街振興組合	一条通七本松西入ル品川フードビル3F	第1火曜
出町商店街振興組合	枳形通出町西入ル二神町	第3水曜
品川フードプール	七本松通中立売西入ル東町	第1火曜

左 京 区

イズミヤ高野店	高野東開町16	毎 日
ジャスコ東山二条店	聖護院蓮華蔵町31-1	毎 日
ヘルプの会一乗寺店	一乗寺高槻町6	毎 日
ポロロッカ京都厚生会北大路店	下鴨本町10	毎 日
下鴨公設小売市場	下鴨貴船町62	毎 日
グレースたなか	田中飛鳥中町40	毎 日

中 京 区

スーパー北野御池店	西ノ京西月光町6-1	月曜、金曜
スーパー北野高辻店	壬生西櫓町8	毎 日
ライフ壬生店	壬生西櫓町6	毎 日
エムジーショップ四条大宮店	壬生賀陽御所町3-7	毎 日
マルゼン三条店	千本三条東壬生馬場町5	水 曜
マルゼン高辻店	壬生辻36-1	水 曜
西友三条店	神泉苑姉小路下瓦師69	毎 日
天神御旅商店街振興組合	西ノ京大炊御門町8-4	第1・第3金曜
一水河口	西ノ京大炊御門町15	第1・第3金曜
梅田食料品店	西ノ京大炊御門町2	第1・第3金曜
きたむらそうざい店	西ノ京北円町70	第1・第3金曜
フードショップカツラ	西ノ京北円町75	毎 日

東 区

スマイル本町店	本町19丁目425	毎 日
ハッピー六原	松原通大和太路東入	毎 日
肉の大橋亭	松原通大和太路西入ル弓矢町11	毎 日

山 科 区

フレスコ勤修	勤修寺西栗栖野町29	毎 日
ハッピー山科	東野舞台町18	毎 日
ヒカリヤ山科店	榎辻草海道町15	毎 日
ビッグM	東野北井ノ上町10-29	毎 日
フレンドリーショップ寿屋小山店	小山姫子町5-1	毎 日
フレンドリーショップ寿屋東店	大塚西浦町37-2	毎 日
西友山科店	音羽野田町	毎 日
マツヤスーパー西野山店	西野山中島井町63	木 曜

下 京 区

エムジーショップ島原店	松屋町通丹波口上ル	毎 日
エビスク七条	新町七条下ル東塩小路	毎 日
藤井大丸	寺町通四条下ル貞安町605	毎 日

南 区

丸善商店吉祥院営業所	吉祥院池ノ内町24-3	木 曜
ジャスコ京都南店	東九条南山王町5-3	毎 日
フードショップコスモ九条店	唐橋堂ノ前町22-1	毎 日
豊民	西九条藤ノ畑14	毎 日
田中留	東九条鳥丸町47	毎 日
魚松	東九条東岩本町34	毎 日
丸元商店	吉祥院船戸町7-8-1	土 曜
ダイエー上久世店	久世上久世	毎 日

右 京 区

エムジーショップ福王寺店	宇多野福王寺町31	毎 日
キートス常盤店	常盤窪町1-10	毎 日
グロッサリーストアよしむら	御室岡ノ裾町34	毎 日
ジャスコ帷子ノ辻店	太秦帷子ノ辻町30-3	毎 日
ジャスコ京都西店	山ノ内池尻町1-1	毎 日
スーパー大黒屋太秦店	太秦梧本町2-1	毎 日
ミール花園	花園木辻南12	毎 日
嵯峨公設市場協同組合	嵯峨折戸町28-1	毎 日
丸善葛野店	西京極午塚町29	木 曜

西 京 区

エポック洛西店	大原野西竹の里町1丁目19-3	毎 日
高島屋洛西店	大原野東境谷町2丁目5-5	毎 日
スーパー北野桂店	川島東代町77-1	毎 日
ポロロッカ桂店	川島有栖川町13	毎 日
スーパーポップ	川島栗田町	毎 日
西友桂店	山田大吉見町	毎 日
西友桂坂店	大枝沓掛町7丁目1-13	毎 日
ホッカイヤ	桂市ノ前町18	水曜・金曜

伏 見 区

サンプラザ久我の杜店	久我森の宮14-9	毎 日
Kマート下鳥羽店	下鳥羽柳長町55	毎 日
Kマート桃山南口店	桃山町養斎16-37	毎 日
厚生会醍醐店	醍醐大溝町8-1	毎 日
スーパーナカトミ	深草平田町35	日 曜
スマイル藤ノ森店	深草直達橋2-422	毎 日
スマイル桃山南口店	桃山養斎17	毎 日
ダイエー藤ノ森店	深草キトリ町82	毎 日
サティ伏見店	御堂前町616	毎 日
西友伏見店	伯耆町15	毎 日
イズミヤ伏見店	深草出羽屋敷	毎 日
イズミヤ六地藏店	桃山西尾	毎 日
近商ストア向島店	向島四ツ谷池14-30	毎 日
スーパーフレスコ丹波橋	東大文字町1063	毎 日
総合食品水谷	横大路東裏町24	毎 日
(株) マスジ	新町4丁目451	毎 日

* 上記以外にも、京都生活協同組合の組合員センター等で回収されています。
* 回収日は変わることもありますので、お確かめください。

行政からのお知らせ

京都市では、事業所のごみの減量・廃棄に対し指導を行っています。

…… みんないっしょにごみ減量 環境を思いやる事業所づくり ……

1 事業者の責務

廃棄物の処理等については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」「京都市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」により、事業者は事業活動に伴って生じた廃棄物の処理責任について次のとおり規定されています。

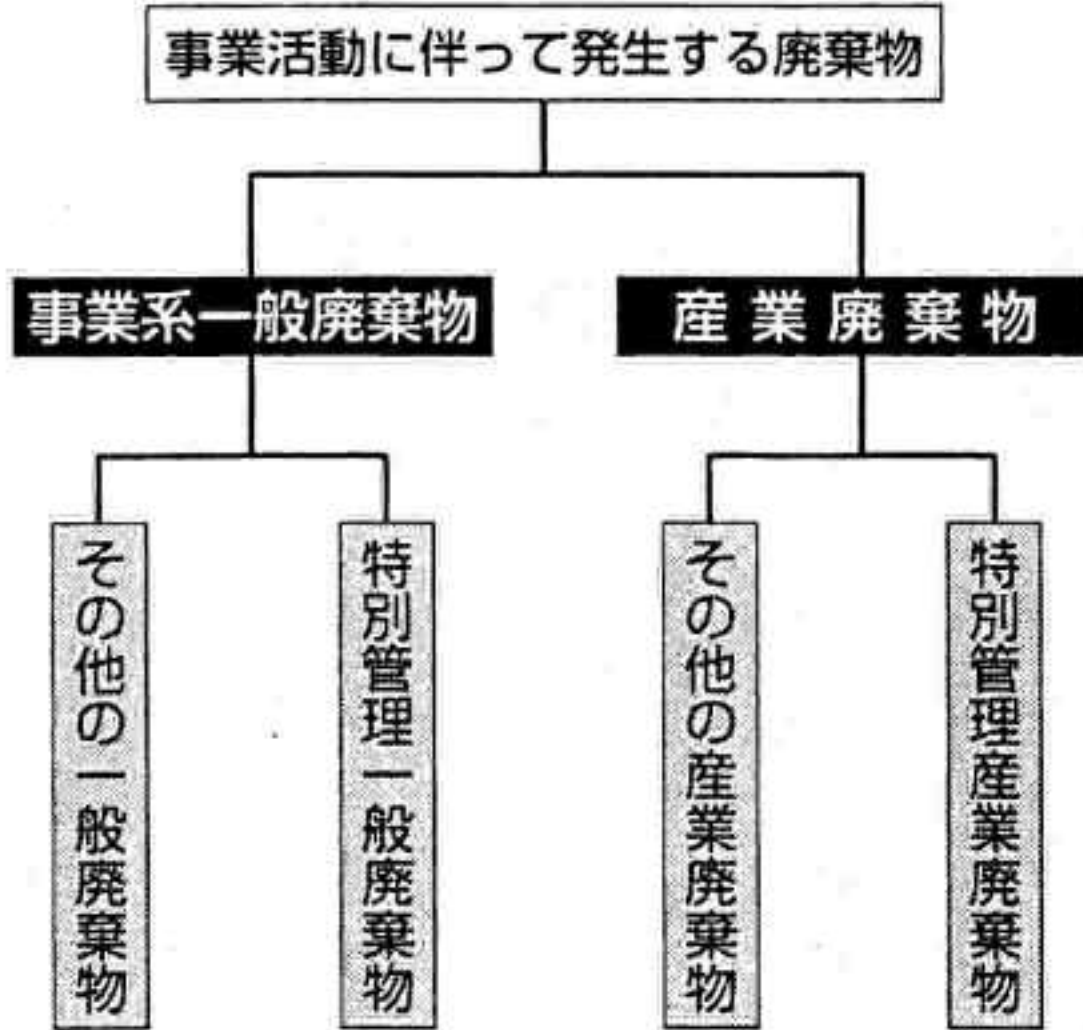
☆事業活動に伴って生じた廃棄物は、自らの責任で適正に処理すること。

☆事業系廃棄物の発生を抑制し、及びその再生利用を促進することにより、廃棄物の減量を図ること。

☆廃棄物の減量等について、国や市の施策に協力すること。

☆この規定は、事業をされている方すべてに当てはめられます。

2 廃棄物の分類



3 ごみ減量・適正処理のために

①準備

＊「ごみ減量に取り組もう。リサイクルを推進しよう。」という事業者の方針を作ってください。

＊取組の中心となる担当者を決めてください。

②現状把握

＊発生の状況の把握

どこから、どんなごみが、どのような形で、どれくらい発生しているかを調べてください。発生量を把握するためには、基準（一袋の重さ、ごみ箱一杯のごみ量の目安等）を作ることが必要です。

＊処理の状況の把握

発生したごみは、だれが、どこへ集めて、どんな方法で処理されているかを調べてください。せっかく分別していても、最終処理が焼却ではリサイクルを推進していることにはなりません。

③減量計画を作る。

＊改善ポイントを見つける。

現状がわかると、問題点も見えてきます。担当者だけでなく、いろいろな人達のアイデアを求めてください。

＊計画は具体的に…。

「紙はリサイクルしましょう。」という形ではなく、「新聞は新聞入れに、雑誌は雑誌回収箱、再生コピー用紙の使用後は専用の回収箱へ」というように、初めての人もわかるようにしてください。

＊環境整備も忘れずに。

回収箱の設置、保管場所の明示なども大切です。必要な回収容器等は、新規に購入するだけが調達方法ではありません。今あるものを上手く再利用する方

法も考えてみてください。

④実行

さあ、実行です。担当者だけで頑張るのではなく、みんなで行って取り組んでください。

⑤チェック

担当者を中心に、計画がきちんと実行されているか常にチェックしてください。

⑥見直し

「計画が達成できた」「どうもうまいかない」こんな時は計画の見直しが必要です。次の目標、問題点の検討を行い、新たな計画をつくり取組を継続してください。

4 無理なく無駄なく根気よく… ごみ減量は継続が大切です。

市内の事業用建築物のうち、延床面積が3,000㎡以上のところでは、平成6年度から、こういった取組を「事業系廃棄物減量計画書」にまとめ、毎年5月31日までに、京都市に報告することが義務付けられています。また、新たに建物を建築される際には、「廃棄物保管場所設置届」により、廃棄物の保管場所の設置について事前協議することとなっています。

「うちは、3,000㎡未満だから、対象外だ。」そんなことはありません。事業者の責務ということでは、みな同じです。届が必要かどうかではなく、環境問題の大きな項目である「ごみ減量」に、会員事業所の皆様には率先して取り組んでいただきますようお願いいたします。

地域ごみ減量推進会議相次いで立ち上げ

地域のごみ減らしの拠点となる地域ごみ減量推進会議が左京区と山科区で発足した。昨年1月、下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議が発足して以来、他地域での立ち上げが待たれていた。

聖護院・川東・新洞学区

ごみ減量推進会議2月22日スタート

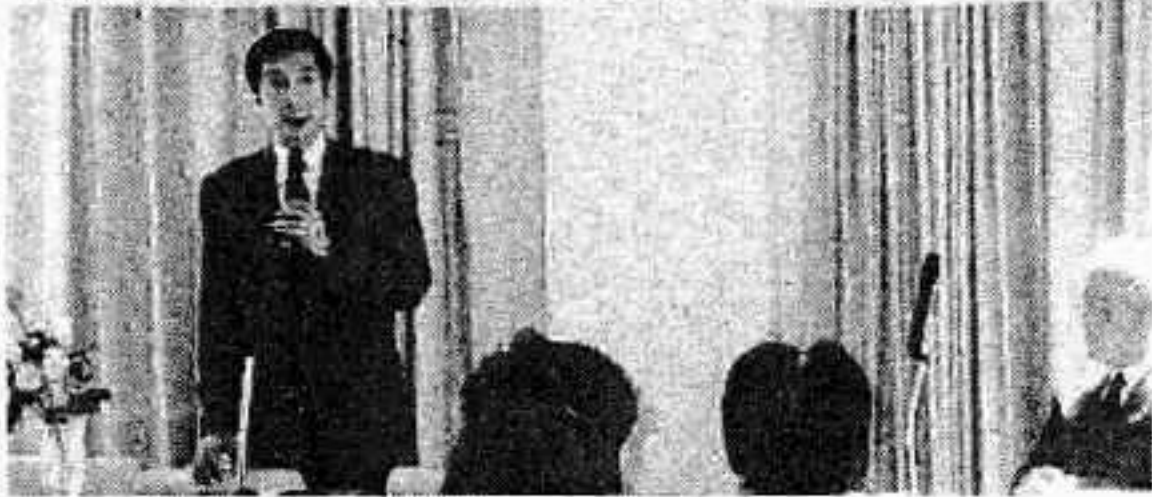
発起人20人の呼びかけで左京区に地域ごみ減量推進会議第2号が誕生し、去る2月22日(日)午後、設立総会が開かれた。高月 紘会長、藤川要蔵京都市清掃局ごみ減量リサイクル推進室長らも駆けつけ祝辞を述べた。議事は滞りなく進み、会長、副会長、委員など役員19人が選出された。「地に足を付けて、まず勉強し、みんなで話し合いながらできるところからごみ減らしを進めていきたい」と今西恒子会長は謙虚に語る。

総会の後、堀 孝弘氏(環境市民)による講演「誰でもできるごみ減らし」が行われた。当日の参加者は82名にのぼり、会場はこれからの活動の成果に期待を寄せ、熱気にあふれていた。



聖護院・川東・新洞学区ごみ減量推進会議 今西恒子会長。

聖護院・川東・新洞学区・ごみ減量推進会議 設立総会・記念講演のつどい

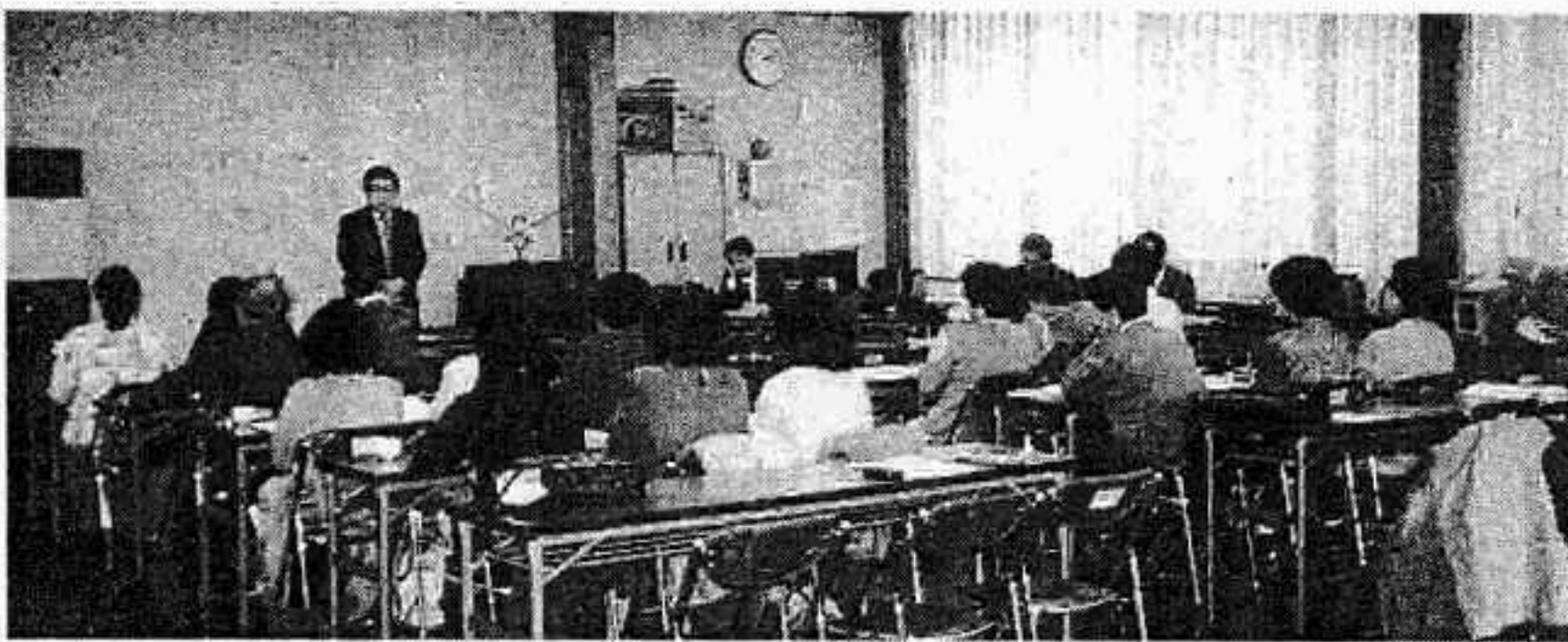


挨拶する高月会長

山科西野地域ごみ減量推進会議 「めぐる会」3月9日スタート!

地域ごみ減量推進会議第3号は山科区西野に誕生した。3月9日(月)午後2時、約20名が山科団地A・B棟集会所に集まり、設立総会が開催された。設立発起人代表山内寛氏

の挨拶に続き、藤川要蔵京都市清掃局ごみ減量リサイクル推進室長をはじめとする来賓が祝辞を述べた。当日会長に決定した村西法子氏は「ごみ問題は私のライフワークです。課題は山積しています。まずは多くの人が困っておられる古紙回収を徹底させたい」と前向きな姿勢を見せている。通称「めぐる会」と名付けられた山科西野地域ごみ減量推進会議は、会員40名。規模の小さな点を生かした地域密着型の活動に期待したいところである。



山科西野地域ごみ減量推進会議設立総会

総会の後、講師に松本育生氏(環境市民事務局責任者)を迎え、記念講演のつどいが開かれ「やさしいごみ減らしに関するおはなし」を熱心に聞き入った。環境先進国ドイツの例を交え、アルミ缶の実状などが話された。

下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議が発展的に解散それぞれの学区毎に独立し、3つの団体に

1997年1月発足し、使用済みの天ぷら油の回収をはじめ活発な活動を展開してきた下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議だが、1年間の活動を通して小回りの利く、より地域に根ざした独自性のある活動に取り組み必要性を痛感し、それぞれの学区毎に団体を発足させることになった。(平成10年4月1日よりスタート)

新たな出発への期待を込め下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議としては、最後の集いが開かれ、松本育生氏(環境市民事務局責任者)が「資源保護リサイクルの推進について」と題する講演を行った。



講演する松本育生氏



山科西野地域ごみ減量推進会議 村西法子会長

新谷葉子さんら受賞者4名の笑顔が眩しかった 買い物袋デザインコンテスト の表彰式

昨年10月～12月にかけて一般公募によりデザインマークを募集してきた、買い物袋デザインコンテストに41作品が寄せられ、去る1月13日審査会が行われ、4作品が受賞の栄を受けることになった。審査委員長漫画家ハイ・ムーン氏、他、5名の審査員が審査、新谷さんの作品が最優秀賞に輝いた。「押しつけがましい表現でなく、だれにでも愛されるソフトさ」が印象的だったとは、審査にあたった京都デザイン協会代表・恩地博氏の評。3月7日(土)午後1時30分よりルビノ京都堀川で開かれた表彰式では、4名の受賞者に表彰状と賞金、出来立ての新谷さんのデザインマーク入りのオリジナル買い物袋が授与された。

●受賞者 最優秀賞 新谷葉子さん(左京区26歳)
優秀賞 今川ゆかりさん(左京区19歳)
奥村佳子さん(右京区25歳)
和多田一美さん(中京区30歳)



表彰状を受けとる新谷さん

ショッピングなショッピング袋 環境学習会でダイオキシンの ど有害物質に警鐘

買い物袋デザインコンテスト表彰式に引き続き、関連事業として環境学習会「環境にいいショッピング袋って？」が3月7日(土)午後2時より、ルビノ京都堀川で開かれた。

スーパーをはじめ小売店でもらうショッピング袋の環境度を調査してきたJEE(日本環境保護国際交流会)とふるしき研究会が呼びかけ、めぐるくん推進会の会の協力を得て学習会を持った。ショッピング袋の調査報告にはじまり、蛍光X線を通して調査にあたった京大環境保全センター高月 紘教授の論評では「各家庭では毎週84枚の買い物袋を使っている」などの実状が報告された。2年前からごみの焼却灰に混入する鉛の危険性を発表していた日本工業大学佐藤茂夫助教授は「顔料に含まれる物質からダイオキシンが生成される危険性が高い。クロム酸鉛を含有したレジ袋に由来する焼却灰中の鉛は無視できないレベルにある」と警告した。また、パッケージデザイナー竹林善孝氏は、袋ものを制作する立場から環境への留意点を話した。



ショッピング袋の有害性を指摘する佐藤助教授

ショッピング袋の有害物質が明らかになり、あらためて京都市ごみ減量推進会議における買い物袋持参の呼びかけへの意義が深まった。

卒業生から新入生への思いやり要らない道具を譲る リサイクル市が大学で花盛り

大学生活の4年間、使っていた道具類を卒業と同時にごみと捨て去るのは止めて！とリサイクル市が始まったのは今から11年前。先輩を切った京大に続けと4年前からは同志社大も取り組み、この春からは立命館大などでも市を開くほど広がってきた。この種の市について回るのが収納場所の問題。マスコミで悩みを訴えスペースの問題も解決し、今年も3月末から4月あちこちの大学で開かれた。リサイクル市の元祖的な京大では、「リサイクル市へのいざない」なる冊子を発行し新入生に向けて利用を呼びかけた。



京大リサイクル市。約750点もの家具類が時計台下に並んだ

京都市ごみ減量推進会議

平成9年度 事業報告

平成8年11月に発足して以来、講演会などの事業に取り組んだ「京都市ごみ減量推進会議」。2年目に当たる平成9年度は多彩な事業を展開した。

市民みんなでごみを減らそう！ ごみ減量に関する全市民的キャンペーンの実施

包装は軽く薄くとお店を通して呼びかけ

●簡易包装の推進キャンペーン

百貨店、スーパーなどの店頭で「めぐるくん」を統一のロゴマークをアイキャッチャーにポスター・ステッカーなどを通して「地球を守り、ごみを減らすために、簡易包装にご協力ください。」と呼びかけた。

・京都百貨店協会、京都商店連盟、京都生協、日本チェーンストア協会関西支部との共同事業として実施

・実施期間／平成9年11月10日(月)～12月10日(水)



廃棄物が芸術作品になった。

アーティストも子どもたちも参加した。

●ごみアート展の開催

M・ババッチをはじめ6人の招待作家による立体作品を展示。同時に「子どもたちのごみアートコンテスト」も実施。幼稚園・小学生から403点、中学生26点の計429点の応募の中から16名(または団体)が入賞し、11月24日表彰式を行った。応募作はすべて、会場内に展示した。ごみアート展の開催・運営に当たって、会員企業・団体等から協賛金(140万円/35社・団体)をいただくとともに、延べ209人の市民・学生によるボランティアの協力を得た。(来場者数：1600名、入場無料)

・開催期間／平成9年11月15日(土)～11月24日(月・振替休日)午前10時～午後5時
・会場／元京都市立立誠小学校(中京区蛸薬師通河原町東入ル)

増え続ける空き缶ごみを何とかしたい。激論が飛び交った。

●空き缶徹底討論会の開催

京都市のごみの現状、環境先進国のごみ減量の取り組み状況をまとめたビデオ上映後、コーディネーター・高月 純氏(京都大学環境保全センター教授)／パネラー・伊藤 さかえ氏(主婦連合会京都支部長)、勝田 邦夫氏(ヘリンビール京都工場)、谷 芳一氏(榎木屋酒店副店主)、藤川 要蔵氏(京都市清掃局ごみ減量リサイクル推進室長)、堀孝弘氏(環境市民)が、空き缶をはじめとした容器包装材をテーマに話し合った。ごみの発生を抑制し、発生させたごみはリサイクルする循環型の社会づくりに向けてライフスタイルの変換への行動を起こすきっかけとなった。(参加者数：約70名、入場無料)

・開催日 平成9年11月24日(月・振替休日)午後2時～4時
・会場 元京都市立立誠小学校 講堂

一澤帆布の協力を得て、
買い物袋持参運動にはずみ。

●買い物袋デザイン募集・制作プレゼント・環境学習会の開催

・買い物袋の持参を普及させるため、デザインマーク(絵・文字)を市民から募集、41名の応募の中から審査会にて最優秀賞および優秀デザイン賞(計4点)が選ばれた。最優秀デザインは一澤帆布の協力による手提げバッグにプリントされ、オリジナルバッグとして50個制作し、一般公募にて市民にプレゼントした。表彰式に連動して、環境学習会「環境にいい

ショッピング袋って？」を開催。ポリ製のショッピング袋の有害性について学んだ。

・表彰式および学習会開催日／

平成10年3月7日(土)午後2時～4時
・会場 ルビノ京都堀川 京都市上京区東堀川下長者町下ル
(参加者数：約80名、入場無料)

要らない物を要る人に。
にぎやかに市を開いてごみ減らし。

●フリーマーケットの開催

平成9年6月1日(日) キリンビール京都工場にて「フリーマーケットinキリンビール開き97」を開催。77店が出店した。当日推進会議ボランティア20名がヘルプに駆けつけた。啓発コーナー設置し、推進会議の存在をPRした。(入場者：約8,000人)

平成9年10月10日(祝)、下鴨神社社の森で開催されたフリーマーケット京都(京都市主催事業)に協力した。推進会議からボランティア12人が参加、全員オリジナルTシャツを着用した。のぼりを立てた啓発コーナーでは推進会議のパンフレット・会報を配布した。(約20,000人入場)

調べた、作った、
ごみ減らしに役立つこと。

●調査研究

JEE(日本環境保護国際交流会)による上京区リサイクルマップ制作への助成とめぐるくん推進会の会が平成9年8月と9月2回にわたって行った京都市ごみ分別収集の現状調査に対し助成した。

地域でゴミを減らそう！ 地域ごみ減量推進会議の設立及び活動支援

いろいろ体験しながら、

ごみ減らしを学んだ。

●ごみ問題のワークショップ（参加型学習会）の開催

地域ごみ減量推進会議の立ち上げのためには、すぐに役立つ知識とノウハウが必要と人材育成を期してワークショップを開催した。（参加者数：1部・2部・3部で延べ109名）

プログラム：

・第一部／グリーンコンシューマー「買い物でごみ減らし」9月9日・9月13日講師：堀孝弘氏（環境市民）

・第二部／ごみを減らそう「パートナーシップが大切」

9月27日・9月30日、講師：能村 聡氏（環境市民）

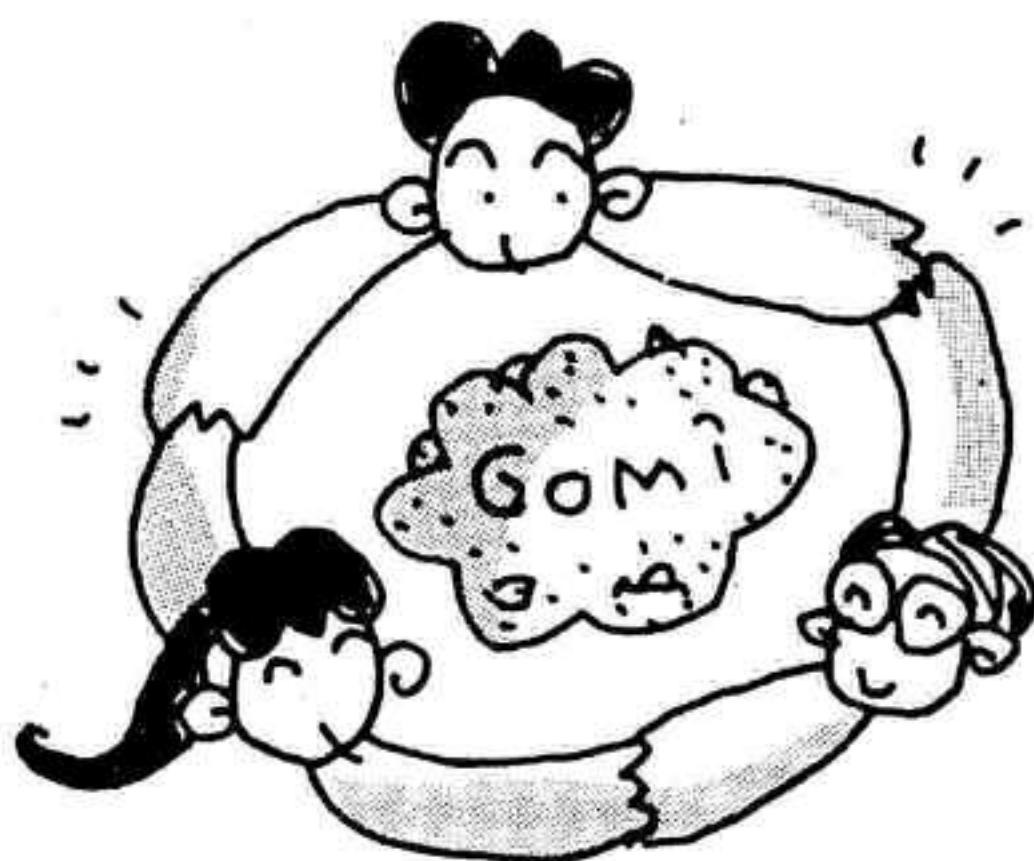
・第三部／「地域でのグループづくり」10月16日・10月25日、講師：西村 仁志氏（環境共育事務所力ラース）

会場：職員会館かみがわ他

会員の顔が見えてきた。
ネットワークづくりの基本ができた。

●「会員名簿」の作成

140会員の住所・連絡先はもちろん活動概要やごみへの取り組みなどを明記した名簿が平成10年1月完成し配布した。（A4サイズ29ページ）



下鴨・葵・松ヶ崎に続けと

2つの地域ごみ減量推進会議が発足

●地域ごみ減量推進会議の立ち上げ

平成10年2月14日左京区の聖護院・川東・新洞学区で設立総会が開かれ、正式にスタートした。続いて3月9日山科区西野地域でごみ減量推進会議が誕生した。

応援します。地域での取り組み

●地域活動助成要綱の制定

地域ごみ減量推進会議に関わる活動を支援するための要綱が平成9年6月30日に完成し各会員に配布した。

ごみ減らし活動を広く伝えるために 情報収集・提供活動のために必要な事業の展開

テーマ毎の座談会やニュースなど

情報も盛りだくさんに

●会報「ごみを減らそう！」の発行

平成8年度の第1号に続き、年4回発行し会員に配布した。

第2号 8月発行、第3号 12月発行、第4号 2月発行、第5号 3月発行（A4サイズ、12ページまたは16ページ）

メディアを通してより多くの人に
ごみ減らしメッセージを届けた。

●KBS京都のラジオ番組を通してのごみ減量キャンペーンの展開

人気ラジオ番組「京都大好きラジオ」を通し、へいかにしてごみを減らすか・家庭ごみの減らし方をテーマに毎回ゲストを交えてごみ減量呼びかけた。

放送：2月16日（月）～3月12日（木）4週間



捨てられていたシークレットな書類を
事業としてリサイクルに。

●秘密書類リサイクル事業

7月8日から事業所等の秘密書類を製紙工場

へ搬入するリサイクル事業を開始した。

（参加事業所数：21事業所）（3月末現在）
回収総量：7月～3月、約303トン

リサイクル事業を中心に
多彩な活動が際立った。

下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議の活動

●リサイクルフェアの開催（4月1日～19日）
下鴨小学校・京都銀行下鴨支店・松ヶ崎小学校を会場として巡回し、リサイクルの必要性の普及を目的にリサイクル製品やパネルの展示などによるリサイクルフェアを開催した。

●再生紙トイレットペーパーのセール

6月5日から1週間、環境月間の取組として再生紙のトイレットペーパー・ティッシュの安売りを会員の5店舗で実施した。

●使用済みてんぷら油リサイクルモデル事業

家庭で使用済みとなったてんぷら油を回収し、リサイクルする事業を展開。回収された油は、ディーゼル・エンジン燃料として、京都市のごみ収集車に利用される仕組み。8月より毎月第2土曜日に地域の6カ所の回収場所にて推進会議の役員立ち会いの下に回収。8月～3月の計8回で約2,700リットルを回収した。

ごみ調査隊が行く

京都市民は、ごみ減量に どう取り組んでいる？

リアル・リンク
京都の
街頭アンケート
より

約7割が分別してごみを出している。
買い物袋持参も20%近い。

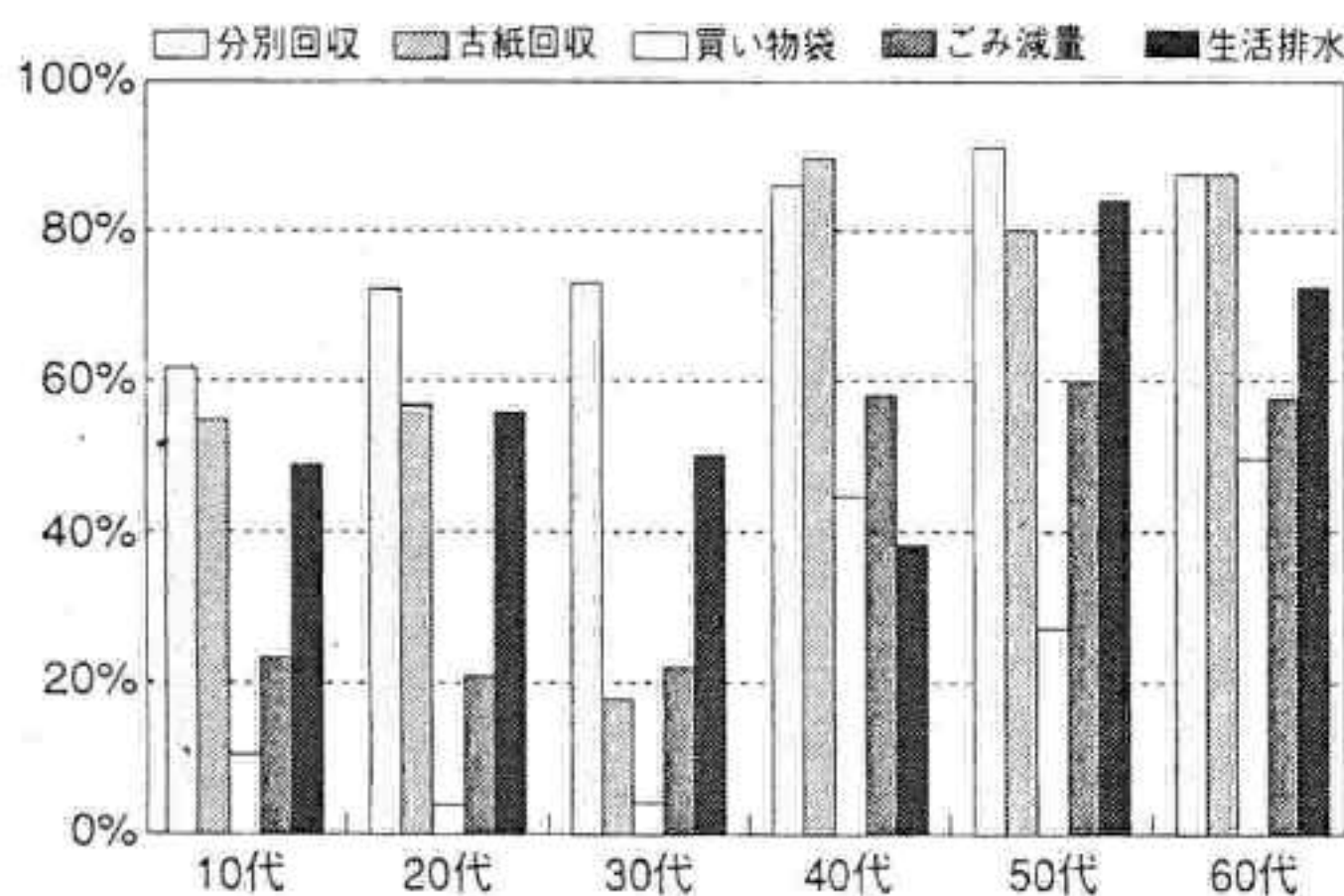
「環境に対し普段心がけている行為について」という質問項目で最も多かったのは、分別ごみ収集への協力。7割以上がきちんと分別して出していると答えた。缶・びんの2種混合式による分別ごみ収集は、1996年10月スタートしたばかり。約1年ということを考慮すれば、協力率は高いといえるのかも知れない。

単純に比較はできないが、平成8年度環境庁が行った「環境に優しいライフスタイル実態調査」の同じ質問項目のデータを参考にしてみると、ごみ分別収集を行っているのは、91%。79%が新聞、雑誌を古紙回収に出し、油や食べかすを排水口から流さないようにしていると答えている。日常生活でのごみ減量の努力をしているのは59%。買い物袋の持参は、今回の調査より低く、18%になっている。

●環境に対し普段心がけている行為について

	回答数	割合
ゴミはルールに従ってきちんと分別して出すようにしている	201	75.6%
新聞、雑誌は古紙回収に回すようにしている	179	67.3%
買い物には買い物袋を持参している	51	19.2%
日常生活において出来るだけゴミを出さないようにしている	92	34.6%
台所で油や食べかすを排水口から流さないようにしている	153	57.5%

●環境に対し普段心がけている行為について（年代別）



年代による差が歴然。
20代、30代の意識の低さが気になり。

前述のアンケート項目への取り組みを年代別に見ると、40代以上の層は、ごみに対して意識が高いといえるだろう。問題は、30代以下で、買い物袋の持参、ごみ減量への努力などお寒い限り。調査したリアル・リンク京都では、「モノ不足」を経験した世代、経験していない世代とのモノに対する感覚の違いが如実に現れていると分析している。

京都市のごみ回収システムについては
興味のない人もかなりいる。

1997年10月からペットボトルの分別ごみ収集が始まった。それまでの缶・びんに加える3種混合方式によるシステムが採用された。一方、長い間無料だった大型ごみが有料化された。この大きな変更に対し、市民はどう感じているのか。導入直後の印象を採った。左の表を見ると、「よくなった」という意見が多い。ここで留意しなければならぬのは、興味なしという割合の多さである。3割強が興味を持っていないとは、嘆かわしい。より関心を高めるための努力を惜しんではならないということなのだろう。また、もっと改善すべきという声も尊重すべきで、中には専用袋の必要性、電池の回収への要望なども寄せられている。

●新しい京都市のごみ回収システムについて

全 体	回答数	割合
前のほうがよかった	22	8.3%
よくなった	105	39.5%
もっと改善するべき	53	19.9%
興味がない (含 わからない)	86	92.3%
	266	

●標本数及びその特徴

有効回答数 266枚

現住所：京都市136 京都府51 その他79

性 別	男性 92	女性 174					
年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
	52	98	22	29	25	40	266

「環境と経済の調和」をモットーに、「ストップ・フロン・きょうと」というネットワークを発足させるなど、様々な活動を展開しているリアル・リンク京都。昨年6月から大学生で構成する環境NGO「SCOPE」と共同で街頭アンケートを毎月実施している。去る9月28日、四条河原町にて聞き取り調査を行った中から、「ごみに関するものを取り上げてみた。」

東部山間埋立処分地見学レポート

めぐるくん推進友の会 副代表幹事 吉村佳代子

146万の京都市民のごみのため
に切り開かれた山中

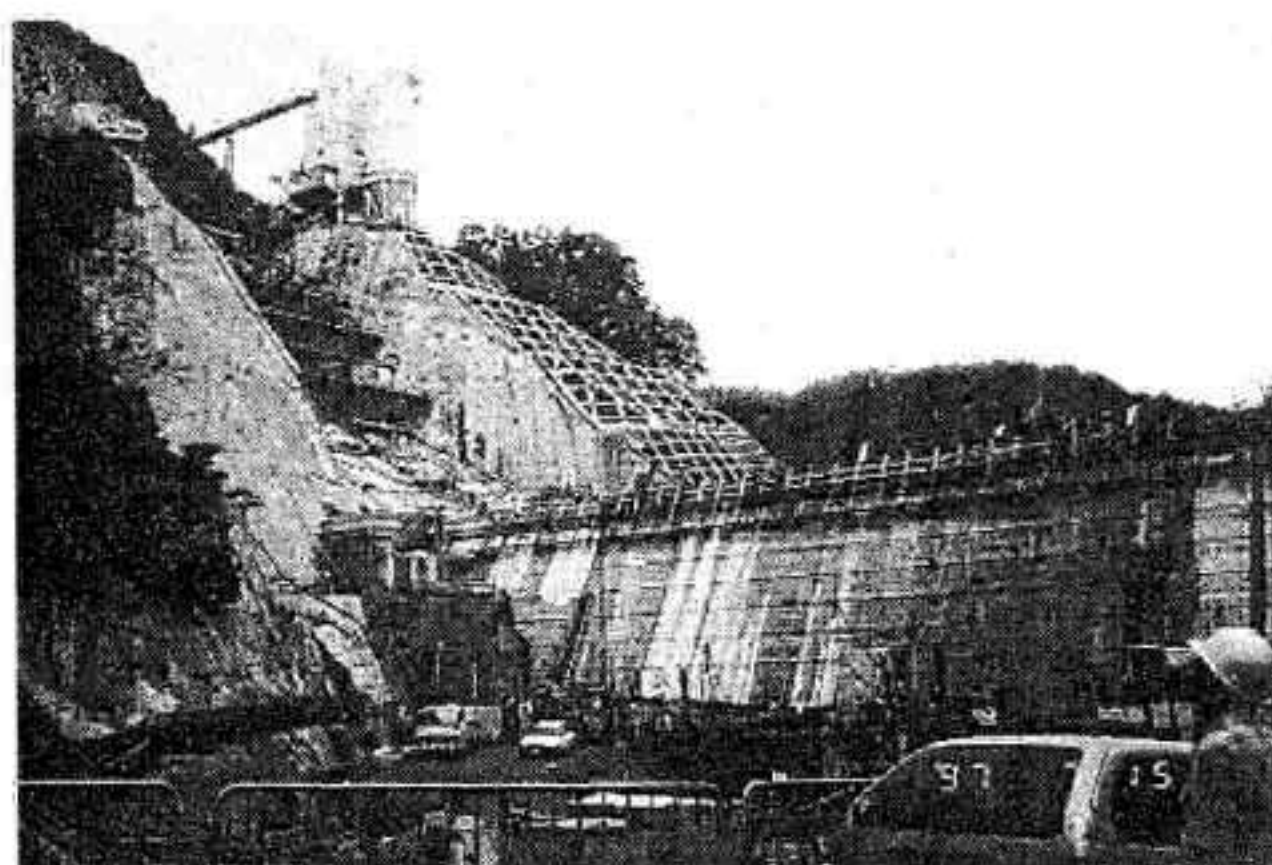
山科区と伏見区の境、もう少し東へ行けば滋賀県というところの山中に東部山間埋立処分地が建設されている。山科区小野御所ノ内町から進入路を入ると道は九十九折れに山を登っていき、その間橋梁13カ所、栈道橋7カ所、トンネルが3カ所……。この光景を見て「あの万里の長城のようなものは何ですか？」と尋ねた人もいたとか。ひとしきり登ると、今度は谷底に巨大なV字型のコンクリートダ



ムが見えてきた。これが埋立処分地だ。完成すれば高さ68m、長さが192m。平成11年度の使用開始に向けて極寒のなか、突貫工事が進められている。さらにその上には山の本を伐採した分の保水能力を補うため、治水用のダムがある。これらの施設の総工費に約520億円の税金が使われている。朝、家の前にごみを出せば知らぬ間に持っていくてもらえる。ごみの処理費は「タダ」のように思っているはいないだろうか。146万人の京都市民のごみの廃棄はこんなにも大がかりになっている。

規模は大きい15年間で埋立が完了。ごみを出さない生活様式への変革が急務。

東部山間埋立処分地の埋立処分量は、約450万㎡で現在の水垂処分地の4倍以上の規模である。と聞くと、随分長く利用できるが、公式に発表されている埋立期間はたったの15年。京都市のごみ処理量は、リサイクルやごみの減量が呼びかけられたとしても年々増え続け、平成8年度には79万トンを達している。このまま過剰包装や使い捨て容器が増え続ければ、埋立処分地の耐用年数はさらに



短くなるだろう。この処分地は、計画から完成まで21年を要している。このサイクルでいけば、もう次の処分地を計画しているはずだ。しかし次の処分地は予定されていないし、このような埋立処分地を未来永劫造り続けていくわけにもいかない。この東部山間埋立処分地をできるだけ長く使えるように、できれば最後の処分地となるように、私たちがごみを出さないライフスタイルに変えていかなくてはいいけない。15年などアッという間。もう「次世代の子どもたちのために……」などとは言っていられなくなってきたようだ。

京の始末自慢シリーズ⑤

風薫る頃を過ぎて、梅雨に入ると京の街は急に蒸し暑くなる。残暑までの約四ヶ月。厳しい暑さが続く。道を歩けば、汗が噴き出し、肌もべたつく。ところが近年は京の夏もめっぽうしのぎやすくなった。ビルに入ればひんやり。家でもやたら涼しい。文明の利器の恩恵である。しかしありがたがってばかりもいられない。1日中ビルの中で働くOLの中には、冷房病に悩む人もあり、冷え・肩こりなど体に変調をきたすとか。快適を求めるあまりの節度のなさ、文明に甘える人間の愚かさ。地球環境保全、温暖化の防止からも許されるわけがない。夏場のエアコンを1℃高く設定するだけでエネルギー量32kWh、003.276kgが削減でき、756円も家計費が節約できる（いずれも1年間）といわれているのだが、電力などを使わず夏を乗り切った先人たちに学ぶのも一法だ。

京では盆地特有の蒸し暑さをしのぐ暮らしの知恵が育まれてきた。そのひとつに建具の入れ替えがある。襖をはずし、葎でできた簾戸をはめる。坪庭から吹き込む風は、葎と葎の間を通り、部屋をゆるゆる抜けていく。一陣の風が涼をもたらす。束の間暑さを忘れ、爽やかさに包まれる。ある西陣の町屋では、毎年6月、晴れた日を選んで襖をはずし簾戸に入れ替えるという。もちろんエアコンなどという文明の利器はない。自然の風が通る部屋でビールを飲み、素麺をする。なるほど涼しげだ。節電や省エネ、始末やもたないは風流を運んでくる。

※文中のデータは「京のアジェンダ21」パンフレットから引用したものです。

会 員 探 訪



左からほかさんといふ委員会の太西啓子さん、山田晴美さん。

現在145に達している京都市ごみ減量推進会議の会員。それぞれにごみ減量への取組があるにちがいありません。知恵と工夫にあふれた活動に学ぶことは、ごみ減量への取組をさらに活発化させる上で、大いにプラス。ごみ減量に前向きな会員を訪ねていきました。

使い捨て時代を考える会

Q 京都の市民団体としては老練的な存在と聞いていますが、いつどのような目的で発足したのですか？

A 会が出来たのは1973年、当時の日本は「消費は美德」という考え方が大手を振るい、大量生産・大量消費・大量廃棄の真つ盛り。その結果、公害、環境汚染、健康への害など様々な弊害が多発するようになりまし。物ばかりか人の命さえも使い捨てられている現状に疑問を抱く仲間が集まり、使い捨てを少しでも改めていこうと会を発足させたのです。

Q 具体的にどのような活動を重ねてこられたのですか？「安全農産供給センター」という組織を持ち、有機野菜など食材の供給事業もされているそうですが？

A まず、最初に古紙回収を始めました。リヤカーを引いて集めて回ったんですよ。安全な粉石けんの供給や手作りみその講習会、子供服の不用品交換会、農業体験教室……。本当にいろんな活動をしてきました。和歌山から無農薬みかんを仕入れたことがきっかけで安全農産供給センターをスタートさせたのは1975年。「作り手」である生産者と「受け手」である消費者の関係を単なる物流ではなく信頼関係で結ばんと新しい「流れ」を形成しようとしています。

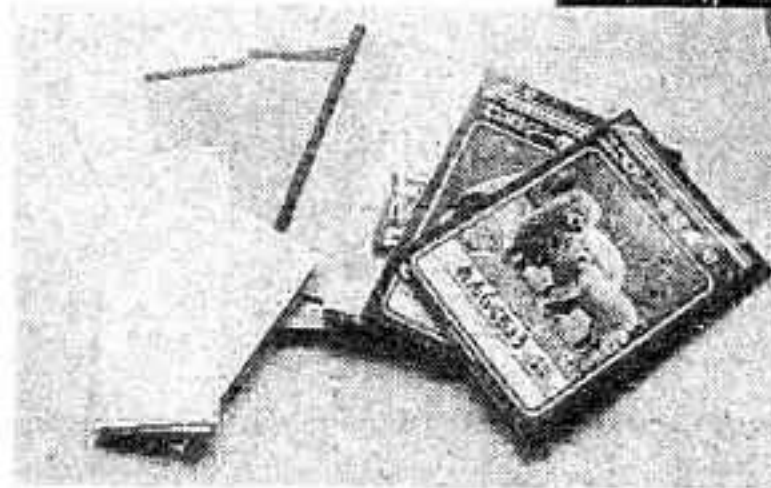
Q ごみ問題などを考え、リサイクルを実践する「ほかさん」といふ委員会」というグループがあるそうですが？

A 今から13年前つまり1985年、「牛乳パックを何とかしたい」との声で「牛乳パック回収委員会」ができました。供給元である安全農産供給センターが集め、整理と製紙メーカーへの運搬手配を委員会が受け持つというかたちで回収が始まりました。やっている

ことがごみ問題だからということでは「ほかさん」といふ委員会」という名称になったのは2年後のこと。牛乳パックの回収のほか、再生紙ノートの供給の段取り、ごみ問



↑牛乳紙パックの整理をする委員会のメンバー。



↑年2回再生紙ノートなどの供給に取り組んでいる。

題の情報提供などを続けています。その間、製紙メーカー、ペットボトル再生メーカーなどに見学に行きずいぶん勉強しましたよ。昨年は、ごみの分別収集についてのアンケート調査を行い、現在集計と評価をしているところ。魚アラのリサイクルに関する調査など京都市との関わりも増えてきていますね。

Q 最近、どんな活動をされましたか？

A 昨年10月、「ほかさん」といふ委員会」が中心になって「環境にやさしい活動を求めて」という連続講座を京都市環境保全活動助成金対象事業として開催しました。今注目されている環境監査、LCA(ライフ

サイクルアセスメント)などを4回にわたり、産直型小規模流通における環境マネジメントのモデル作りについて、講師を招き勉強しました。

Q 今後はどのような活動をされる予定ですか？

A 実は、昨年の連続講座は、今後の「ほかさん」といふ委員会」のひとつの方向性をにらんで開催したんです。今、環境監査があちこちで導入されています。使い捨て時代を考える会においては、私たち「ほかさん」といふ委員会」が主体となって取り組んでいければと話し合っているところです。それに、京都市ごみ減量推進会議での事業にも積極的に参加する予定にしています。

使い捨て時代を考える会

事務所 〒600-8035

京都市下京区寺町通り高辻下ル竹内ビル

1973年発足。大気汚染、食品公害などによって脅かされる現状をひとりひとりが協力し合い、助け合いながら改善することを目的に自主的な活動を続けている。現代の使い捨て生活が様々な形で私たちの生活に深刻な影響を与えているのは、自らの責任でもあるとの認識から、自主的な活動を続けている。また、作り手と受け手が信頼によって暮らしのあり方を考える「安全農産供給センター」も運営している。



安全農産供給センターのマーク

生まれ変わる古紙

古紙品種名	紙品種名	紙製品名
段ボール	段ボール原紙	段ボール箱 ①トイレットペーパーなどの紙管や菓子箱など各種箱類
茶模造紙	段ボール原紙・包装用紙など	段ボール箱や包装用紙袋など
台紙・上台紙	段ボール原紙・紙器用板紙	段ボール箱・菓子箱など各種箱類
雑誌	紙器用板紙・建材原紙など	菓子箱など各種箱類
新聞	新聞巻取紙・段ボール原紙など	新聞紙・段ボール箱など
上白・カード	紙器用板紙など	菓子箱
模造紙上	ちり紙・トイレットペーパー	ちり紙・トイレットペーパー
特白・中白	印刷用紙・図画用紙など	週刊誌・雑誌・ノート・画紙マンガなど
白マニラ	印刷用紙・図画用紙など	
切中質反古	印刷用紙・図画用紙など	



京都府紙料協同組合の方。左から谷藤佳孝会計理事、小枝豊彦理事長、増田典副理事長。

京都府紙料協同組合

Q 京都府紙料協同組合とはどのような団体なのでしょうか？

A 私たちはいわゆる製紙原料問屋の集まりです。京都にある25社で組織をつくっています。製紙原料問屋というのは、回収業者が集めてきた古紙を選別、分類した上で梱包（プレス処理）し製紙メーカーに届け、その過程を担います。古紙の集約だけでなく、品質管理、出荷の調節も大切な業務です。私たちが送り出す古紙は品質面で信頼され、京都ブランドといわれた頃もありました。全国の年間紙・板紙の生産量は3000万トン前後、このうち56%に当たる約1600万トンが、古紙でまかなわれているのです。京都市の場合、年間16万8000トンが古紙のルートに乗せられていると推定できます。

Q 現在、古紙の価格が暴落してリサイクル市場全体が揺らんでいるそうですね。

A 新聞紙や段ボールなどの1kg当たりの単価は、昭和45年頃は、25円、平成7年秋には10円程度でした。それが、今では3〜4円に落ち込んでしまっています。大きな打撃を受けています。リサイクルの意識が高まり、あちこちで古紙回収されるようになり、回収量が増え、それに増えたのに対し、需要の方はいつに増えない。それが、大きな要因です。古紙のリサイクルに取り組み、活動資金としてきた社会福祉施設や自治会などに対し、行政が助成金を出しているところもあるようです。古紙業界が揺らぐことはおみが増えるという問題も抱えていることになるのです。すでに雑誌などは古紙回収が有料化しているところもあるため、通常のおみとして出している市民もいます。市場を守らなければ、私たちだけでなく行政も大きな悩みを持つことになりかねません。こ

のまま放っておくと市場が崩壊し、おみが増えることになるでしょう。原料となる森林を破壊し、さらにおみと化して大気汚染、エネルギーの無駄遣いと大きな問題に発展する危険性を抱えています。

Q 市場の悪化を好転させるにはどうすればいいとお考えですか。なにか妙案はあるのでしょうか？

A 再生紙製品の需要を高めること。それに尽きるでしょう。けれど、スーパーなどの店頭でも紙バツクの回収箱の横でヴァージンパルプ100%のトイレットペーパーを安売りしているのが現実です。オフィスでも約7割がヴァージンパルプ100%のコピー用紙を使用しています。紙そのものの消費は増え続け、



プレスされる古紙。ここで梱包されメーカーへ運ばれる。

日本は今や世界でもアメリカ、スウェーデンに次ぐ紙の消費大国です。古紙のリサイクルは、地球環境保全のため重要なはずなのですが…。

そんな中、昨年から京都市はもろろん全国で100近く自治体で白色度70の再生紙の使用が導入されました。そついった動きはあるのですが抜本的な解決策にはなっていない。

再生紙への知識不足も大きく影響していると考えられるので、市民に働きかけ再生紙の消費が促進されるよう普及活動をしていくのは私たちの課題です。

Q 昨年5月、京都市ごみ減量推進会議で秘密書類リサイクルのシステムがスタートしました。その動きはどうなのでしょう？

A 量的には多いとはいえませんが、古紙再利用とついでには、いい取り組みだと評価しています。事業所のごみ減量にもプラスでしょう。出っぱなしではなく、オフィスで再生紙を使ってもらうことが大きな課題ですね。

Q 今後はどのような活動をされる予定ですか？

A 具体的には、古紙の定点収集ができればと思っています。行政、市民そして私たち古紙問屋などの事業者団体のパートナーシップでともに考え、なにか行動していきたい。昨年末京都市ごみ減量推進会議の理事会で「再生紙の利用促進緊急アピール」が採択されました。あのアピールのとおり古紙業界は危機に瀕しています。オフィスで家庭で再生紙が使われ需要が増えるようアクションを起こします。京都市ごみ減量推進会議の会員の皆様もよろしくお願ひします。

京都府紙料協同組合

所在地
〒601-8181
京都市南区上鳥羽堀子町133
小枝紙業内
出資金 846千円
組合事業 取扱品の共同保管、共同出資金融幹団体協約製紙工場等の見学等
組合員数 25名

「ごみ」 ご意見番

ごいけんばん

買い物袋デザインコンテストで最優秀賞に選ばれた新谷葉子さんのデザインマークをプリントした京都市ごみ減量推進会議のオリジナルバッグ。プレゼントに応募された645人の方々の中からごみ減らしの工夫を紹介。

牛乳パック

をこうして工夫しています。

- 牛乳が好きで1日1ℓ以上飲みますが、パックは手でずいてハガキにしています。(67歳)
- 当たり前ですが、洗って切り開いて乾かして、近くのスーパーの回収ボックスへ。(32歳)
- 適当に切り、二個分で小物入れ、筆立てにしてプレゼントにしています。(73歳)

生いみ

をこうして工夫しています。

- 大根の皮、人参の皮、ブロッコリーの芯などを捨ててしまつようなものをヌカ漬けに。歯ごたえがあつておいしい漬け物に。

※油で揚げる人やスープに使う人もありました。

- しじみの殻を乾かし、ちりめんのかわいい生地をかぶせ、鈴をつけて飾り物に。差し上げた時の喜んでくださる顔がうれしくて、せつせと創っています。(50歳)

ペットボトル

をこうして工夫しています。

- 残り物のおかずは、腐らないうちに圧力鍋に入れ、野菜くずと煮てカレーに(これをへのへのもへのカレーと名付けている)。(38歳)
- コーヒーのカスはレンジでチンしてビンなどに入れ、冷蔵庫の脱臭に。灰皿や、玄関にも置いて臭いを消します。(62歳)
- ミカンの皮は十分に乾燥させ、青シソの土に混ぜます。虫が来ません。
- 木の葉は水に漬けて腐らせ、肥料として使用。(64歳)
- 大根や人参のヘタは水栽培し、観葉植物として楽しむ。
- 魚は頭まで焼き、犬の餌に混ぜる。(24歳)
- だしをとった後の昆布を佃煮にする。

- 2ℓのペットボトルをプランターに利用し、ハーブを育てています。(47歳)

- ペットボトルをスバゲティ入れにしています。(33歳)
- ペットボトルを下から10cmほどを切り、冷蔵庫の細かいものの整理箱に使っている。



布

をこうして工夫しています。

- ボロ布は捨てないでパッチワークに利用。小さな布もアップリケに。(52歳)
- 十分に着られる衣類は洗ってフリーマーケットや

社会福祉施設に持ち込んだり、リサイクル本で探して欲しい人に譲る。

- よれよれになった服は手提げ袋や小物入れに。さらに傷んできたら使い捨ての雑巾にする。

- 家の各部屋に濡らしたボロ布フキンを置き、ティッシュ替わりにしている。(49歳)

- ティッシュを使わずボロ布で鼻をかむ。(61歳)
- 着なくなったオーバーで買い物袋と孫のスポンをつくりました。

- 破れたストッキングを流しのごみ受けに。(40歳)

容器・包装材

をこうして工夫しています。

- 食パンの空袋を捨てずに流しのごみ受けにしています。

- プリン、ヨーグルト、豆腐の容器は植物の種をまき、苗床に使っています。

- フィルムケースをボタン収納、種入れ保存容器として活かしています。(49歳)

- いちごパックを整理箱として使用。(50歳)
- 菓子箱を工夫して3段引き出しや、5段引き出しを作りました。(73歳)

- 包装用の紐を蝶々結びにしてニスを塗り、箸置きにした。

紙いみ

をこうして工夫しています。

- 折り込みチラシでゴミ箱を作りました。(64歳)
- チラシの裏の白い部分は漢字の練習や計算の紙に使う。(12歳)

- ラップの替わりにプラスチックのふたを利用。(60歳)

- 紙おむつは出かけるときだけ。家では布おむつです。(31歳)

使いません

に徹しています。

- お豆腐は容器を持参して買います。(31歳)
- クリーニング店で針金ハンガーを引き取ってもらう。(47歳)

- 塩化ビニールの商品を使いません。(50歳)
- unnecessaryダイレクトメールを請求しない。来たら送り返しています。(34歳)

- そもそもペットボトルや缶入りの飲料類は飲まない、買わない。トレーの野菜や肉を買わない。(32歳)

- 買い物時のレジ袋を断る。

- 本屋さんではカバーを断る。
- 割り箸を使わず「箸」を持参

- 合成樹脂、合成繊維製品より、木・金属・綿・絹の製品を選ぶ。(17歳)

- 牛乳はビンで買っています。(47歳)

あなたのご意見をお寄せください

このページは、ごみに関する自由な発言コーナーです。どなたでもどんなご意見でも歓迎します。京都市ごみ減量推進会議までお手紙をどうぞ。

〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局事業部
リサイクル推進課内

☎ 075-222-4091
FAX 075-213-0453

京都市ごみ減量推進会議 会報「ごみを減らそう!!」NO.5
1998年(平成10年)3月発行
編集発行 京都市ごみ減量推進会議